

## 横浜市立川和中学校増築工事

Tsuzuki-ku Yokohama 1998

- < 多目的ホールと部室棟の増築 >
- < 既存校舎の改築、耐震補強 >

敷地：神奈川県横浜市

発注：横浜市、横総合計画事務所

敷地面積：19,414㎡

延床面積：1,547㎡（教室棟）

1,055㎡（多目的ホール棟）

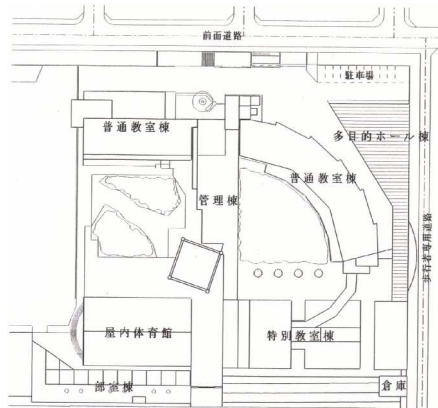
357㎡（部室棟）

全体合計：9,883㎡

新建築：1999年1月号掲載

横浜市の港北ニュータウンにある川和中学校は横総合計画事務所の設計により1981年に開校したが、その後十余年を経て、教室棟、多目的ホール棟、部室棟が増築されることとなった。

既存校舎は「(円弧状の教室棟、ピロティのある特別教室棟、大屋根の体育館棟など)各棟のそれぞれが個別のアイデンティティを持ちながら、なおかつ形態と対話を試みる。」(横文彦氏:新建築 1981年10月号)というアーバンデザイン的な意図のもとにつくられており、注意深く配された建築郡がある種の都市的なアンビエンスをつくりだしている。



多目的ホール内部



今回の増築のうち教室棟は、元々増築が予定されており、原設計に想定された位置に置かれた。これに対し、多目的ホール棟、部室棟は当初のプログラムに含まれていない。私たちはこの二棟を東、北面の敷地境界に沿って細長く、しかも外周（敷地境界側）の壁を半分以上土の中に埋め込むように配置した。これにより、敷地より一層ほど高いレベルにある外周道路（歩行者専用道路、緑道）への影響を極力少なくし、同時に既存の建物と新しい建物の間に、非常に細長い外部空間を生み出している。これは既存部分にはない路地性、街路性を感じさせる、いわば道空間である。既存の建築郡の外延にあり、今までは焼却炉や倉庫の置かれた残余的な空間をポジティブな外部空間として作り出す・・・即ち既存のアーバンデザイン上のコンテキストに対して、道空間というきわめてアーバンデザイン的な言語で対話を試みたといえる。

部室棟外部

部室棟では道空間に既存体育館の開口の少ない大きな壁面が面することになる。また対面する部室棟も更衣室等の用途上どうしても開口が少なくなる。そこで道空間の上部をテントで覆い、上部からの柔らかな拡散光に包まれた、バザールのように祝祭性を持ち親密な雰囲気のある路地を作ることを意図した。

